

令和3年度三ヶ日青年の家指定管理者候補者選定委員会（1次審査）議事録

日 時 令和3年7月27日(火) 午前9時40分から正午
場 所 県庁西館8階教育委員会議室

— 開 会 —

— 社会教育課長挨拶 —

— 委員長による議事進行 —

— 事務局から審査方法と事前審査の集計結果について報告 —

— 議事要旨 —

※以下、三ヶ日フィールドパートナーズを「M社」遠鉄アシスト（株）を「E社」と表記する。

(委員長) 各委員から採点の考え方や、2次審査において質問したいことを発表していただく。

(委 員) <M社>

「県民の平等な使用の確保とサービスの向上が図られること」については標準を上回っていると思われる。これまでの実績もあり、地域の団体とのつながりを大切にしているところは特に評価できる。

「施設の効用を最大限に発揮できる事業計画」については、これまで進めてきた事業に加え、今後新しく取り組みたいことが記載されており、事業拡大への意欲が感じられた。

「管理運営に係る経費縮減」については、指定管理している類似施設の列挙にとどまっており、数値的な評価がなかったため、質問してみようと考えている。

「施設の運営管理・事業の実施に当たり、安全管理体制を十分に整えられるものであること」については、予防的な措置については書かれていたが、災害が発生したときの緊急避難が書かれていなかったため、評価を低くした。

<E社>

大変意欲を感じる内容であるという印象を受ける。特に基本方針については、学習指導要領や県の教育方針に触れるなど、教育施設としての役割という認識が高い。

自主事業については、カテゴリーを明確に分けて、目的に向かった事業であることが記載されていたのが良かった。ただし、人的配置の面で、本当にできるのかという運営面での疑問が残った。

安全面では、事故防止のリスクマネジメント、緊急時のクライシスマネジメントが整理されていて、緊急対応への考え方としては十分であると考えた。

(委 員) <M社>

アレルギー対策について、どうしているか提案書から読み取ることができなかった。利用者の確保に対する取組の提案は、E社と比べると見劣りする点がある。安全に関しては、感染症に関する視点がなかった。また、野外活動における安全

確保について、対策をとっていることはわかっているが、提案書の記載としては不十分な点があった。

< E社 >

「県民の平等な使用の確保とサービスの向上」については、ボーイスカウトやガールスカウトの位置づけが良く分からなかった。社会教育をどのように考えているのか気になった。アレルギー対応では、食事をバイキング形式でとるとあるが、これは何を食べるかということについて利用者に委ねることである。それが集団の教育施設として妥当なのか気になる。

夏季に月曜休所をやめシフト制ですべて開所するということだが、これは施設の効率化という点では良いが、提案された人員配置でシフト制をとることは苦しいと思われる。類似施設の運営実績で、E社が運営する他施設で、従来利用していた団体が、自主事業の増加によって利用しにくくなったという声を聞いている。社会教育施設の運営としてどういう姿勢で向き合うのか気になった。

組織体制については、シフト制で、人がうまく回っていくかが気になった。個人情報保護については、利用者の利便性を上げるためにフリーWi-Fiを導入するということだが、セキュリティの面での心配もある。全体としては両社とも甲乙つけがたかった。

(委員) < M社 >

これまでの実績等も踏まえて評価した。事業計画に関しては、組織体制を高く評価した。現在の取組状況を見ても、うまくいっていると感じている。海洋の安全は、これまでの訓練を何度も視察しているが、現場の状況に合わせた緊急対応訓練ができるようになってきた。なかなかここまで練度の高い安全管理は経験を積まないといけないものであり、ここは譲れない部分として評価をつけた。

< E社 >

利用者確保についてはスケールメリットを生かしている点でM社より優位である。他の委員から指摘があったように、利用者数拡大などについては確かによい提案をしているが、本当に実現していくためには、人員配置の問題や、主催事業がすべてできるのか、あるいは何%位を目標にやろうとしているのかが見えてこない。委託料の中で賄えるのかどうなのか、一番怖い部分である。

(委員) < M社 >

全般的にM社は、現状を改善するような魅力的な提案は無かった。唯一、自然災害対策や野外活動の安全対策等については、もう一步進めていくという気持ちは書いてあったが、提案書の中身が薄かった。今までの流れも踏まえて評価をした。

< E社 >

管理運営に新しい視点からいろいろな提案をしている。Webの活用や申込のルール、ヒヤリハットの活用など、企業の実績を積んだ、進んだ提案がある。また、地元企業とのコラボ企画やプログラムの内容が新鮮で、参加する子どもたち

がわくわくするような内容が見え、十分にレベルアップが期待できる。緊急時の対応もわかりやすく書かれており、関連企業との積極的な連携により、事業のレベルアップにつなげる自信がうかがえる。

ホテルの運営を生かした食事の提供については、バイキング方式は安全性に心配もあるが、子どもたちを対象にする上で食事の楽しさは大きなアドバンテージであると考えた。個人情報の管理はM社と比べて一步進んだ対応として、企業のノウハウが入れられている。利用者の安全や感染症対策は、企業で培った実績を取り入れて効果的な提案がされている。現地説明会の中で見つけた施設の不具合をリフレッシュしていこうという提案がみられる。GPSやタブレットを活用した安全対策についても新しい取組がある。

M社は平成22年の事故から活動を再開し、ここまで持ってきた非常に大きな実績があるが、そこから抜け出せていない。ここで思い切って新しい展開をするという意味でE社の提案には見るべきものがあった。

(委員) <M社>

ホームページはもっと充実するとよいが、予算が不足ではないか。また、福利厚生予算もない。修繕費もかなりかかるため、予算が不足しているのではないかとと思われる。財政的基盤については、長期借入金の扱いをヒアリングでは聞きたい。安全対策マニュアルは実際にあると思っていたが、今回参考資料として確認することができた。

<E社>

地域の団体との関わりやアレルギー対応について書いてあると良かった。マイクロボスの提案はとても良いが、自主事業が増えすぎて団体の受入れができなくなるという声が出るなど、運営面での心配がある。

水道料の財源については不足しているのではないか。緊急時の対応や連絡体制については、書面ではあるがしっかり対応がなされていた。

フリーWi-Fiは不安定な部分もあるので、ポケットWi-Fi貸し出しなどの提案もあと良かった。GPSの活用や、感染症対策もあつたことを評価した。

全体的に見るとM社はこれまでの積み重ねで素晴らしい活動をしている。E社は浜名湖全般における商業的な部分も見え、運営面で心配なところもある。

(委員) <M社>

学校利用者優先という前提に立つならば、かゆいところに手が届く提案をしている。休所日の設定に関しては、柔軟に対応することと休日に研修をするということは、職員の休暇と相反するところでもある。

E社との比較にもなるが、デジタル戦略はどのようにしていくのか。ただ学校利用が中心であるため、それがどこまで必要かということもある。

経費削減については、実現性に疑問がある。例えば運営費、役務費などを下げて提案しているが本当にこのようなことができるのか。財産的基盤としては、決

算書を見ていくと、M社のうちシップマンは小さい企業であり若干財産的基盤という点では弱い部分があるが、ヤタローは自己資本比率 28%ということもあるため標準的な評価とした。

組織体制については、総務の職員も小型船舶免許をとるのは良いと思う。

個人情報に関しては、情報を扱う人数を絞るとか、漏れた時にどうするかという対応が大前提である。これについては3年前の包括外部監査で指摘を受け、所管課でもチェックするようになってきていると思う。提案ではその文面が入っていたが、もしなかったら評価を下げていた。

野外活動・海洋活動の安全確保はこれまで相当気を使っているということで、高く評価したが、自然災害等の安全確保については、資料からあまりよくわからなかった。

< E社 >

資料は充実しているが、どこに的を絞っているのかが分かりづらいところがある。経費については収入が右肩上がり数字を設定してあるが、実現できるのか。また、収入があることを前提に経費を使うことになっているところは不安である。

組織体制については、M社はレスキューに関する資格・講習終了者がいたが、E社にはみられなかった。

(委員) 全体的な印象としては、M社は実態が分かっているが、提案書の書き込みが少ないため損をしている部分は否めない。第2次審査でどのくらいアピールができるかということである。一方、E社は意欲が非常に感じられるが、実現が可能なのか。この辺りをしっかり見比べ、来年4月にスタートするにあたり、どのくらい実現性があるのかということ踏まえて評価した。

< M社 >

長く指定管理をやっていることでの施設の理解度や、外部評価でも高い評価を受けているところは、評価すべきである。今回の指定管理者選定では「安全」と「利用拡大」について魅力的な提案ができるかが大きな柱となるが、M社はこれまで目標が達成できていないところについて、どう達成していこうとしているのかがどれほど書かれているかを評価し、ヒアリングでも確認する。気になる点としては、現所長が次期の体制では変わるということなので、どう引き継いでいくのかを確認をしなければならないと思っている。安全面では、実態としては非常に高い安全対策をとっているが、書面上は地震等自然災害の記載がないので、そのあたりをどう評価していくかというのがある。

< E社 >

施設の理解度としてはM社には劣るが、書面上では相当に施設を勉強していることが伝わる。施設の効用を最大限に発揮できる事業計画については、意欲的であると感じられる。ただし、令和8年度に45,000人という利用者目標があるが本当に実現できるのか、そのアプローチをどのように考えたらよいのか。また、利用拡大を前提として委託料を上限額より800万円ほど下げており、実際に可能であればよいが、不可能であれば赤字が生じる。利用料金も下げているため、赤字

の幅も大きくなるので、覚悟をもってやっていただかないといけない。利用料金を下げ、収入も下がった場合、サービスの低下があっては困るので、ヒアリングではそのあたりを確認したい。財政的基盤としては遠鉄グループ全体のサポートもあるので高い評価である。

安全についてはしっかりと提案が書き込まれているが、実効性がどうなのか。平成22年の事故は、未来につなげていなければならぬものであると考えているので、「安全確認の日」の取扱いや、ご遺族との関係をどのように築いていくのか確認したい。

(委員) <M社>

求める基準に達しているかという点で評価した。全体的に提案書のボリューム感が、E社との違いとしてある。現指定管理者として、見ればわかるという部分はあるが、1次審査は書面審査であるので、この部分の努力は足りなかったという印象はある。事業計画については新しい提案がみられなかった。所員の養成やスキルアップの考え方について、考えはあると思うが書面に無かったのがもったいなかった。

安全については地震災害の対策がなく、わかりにくかった。

<E社>

ボリューム感はあるが、内容としては標準的と考える。「研修統括官」については教員の経験があるということだが、社会教育の実績や経歴としてはどうなのか見えてこなかったので申請者に質問をしたいと考えている。

組織体制については、所員のスキルアップに対する考え方がみられた。

現指定管理者が築いた関係団体や個人とのつながりをどのように引き継いでいくのかは、心配なところである。

(委員長) それでは相互の意見について確認、質問をする時間をとりたい。

(委員) 地震等自然災害対策が各委員で評価が分かれているので、評価の基準をしっかりとしないといけないという思いがある。参考資料に三ヶ日青年の家の安全対策マニュアルがあるが、このマニュアルをもとに再評価することは認められるのか。

(委員長) マニュアルについては申請者の書類として考えてよいのか、それとは別として考えるものなのか、事務局に聞きたい。

(事務局) マニュアルは施設として備えているもので、県と協議をしながら改訂してきたものである。

「提案書」という位置づけではなく、「参考資料」としての位置づけになる。様式集の利用者の安全確保という項目の中で「別添資料『安全対策マニュアル』等を踏まえて提案する」としている。提示したマニュアルはそれにあたる。

(委員長) 一通り意見交換ができたので、ここまでの意見交換に基づいて、点数の修正がある場合は修正してもらおう。

<採点結果>

[修正後の採点結果の発表]

三ケ日フィールドパートナーズ 74.53 点
遠鉄アシスト(株) 78.96 点

(委員長) それでは結果をもとに1次審査通過者を確定する。1次審査通過は原則2者だが、1次審査通過にふさわしいかも含めて意見をいただきたい。

私は、両者概ね基準に達していると思う。

(委員) 賛同する。2者から話を聞き、もう一度判断をしたい。

(委員) 同感である、両者のプレゼンを聞きたい。

(委員長) 異論が無いようなので、M社とE社を1次通過ということによろしいか。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) 2次審査では、M社の発展性とE社の実現性について確認をしたいと思う。

(委員) それぞれの提案書の書き方に随分と違いがあった。M社については、書いていなかった部分についてしっかりプレゼンをしてほしい。特に安全については、対策をしているはずなのに書いてない。そこをしっかりプレゼンしてほしい。E社については、実際に指定管理を受けた場合に引継ぎをどうするのか、その用意なり意気込みなりを確認したい。

(委員) E社が引継ぎを受けると仮定した場合、現在のマニュアルは引き継がれるのか。

(事務局) 引き継いだ上で改訂していくものとなる。

(委員) そうなると、このマニュアルのスペックを満たすだけの訓練に対応する人員の確保が可能なのかが一番の疑問である。不可能となると、安全に活動ができないということになるので、今回のプレゼンではそこが一番重要になると思う。

(委員長) 「ういてまで」というものが提案書にあったが、これは現指定管理者のオリジナルなのか、どこでもやっていることなのか。

(委員) 他でもやっていることである。

(委員長) それではいただいた意見は2次審査の進行の参考とさせていただきます。

ここで2次審査の順番を抽選により決定する。

<抽選結果>

1者目 遠鉄アシスト(株)

2者目 三ケ日フィールドパートナーズ

以上で協議終了。

事務局から2次審査の日程等連絡

— 閉 会 —